

# 死亡現認(確認)證明書

◎ 墓面記載上の注意を見て書きて下さい。

※ (調製月日) 昭和 27 年 / 月 31 日  
 ※ (調製官) 留部第三課

資 料 提 供 者		死 亡 者 の 資 料					現 留 守 備 所 者	本 籍 地	無 有 の 届				
死 亡 時 間 及 死 因		死 亡 原 因							所 属 部 隊	所 属 固 有 部 隊			
大隊が討伐に出勤した際、突如として居て聞いた。		遺 留 品	遺 骸 の 遺 理	死 亡 區 分	發 病 時	傷 病 名	死 亡 場 所	死 亡 日 時	區 分	縣 府 道 都	獨 歩 390 大	所 属 部 隊	所 属 固 有 部 隊
大隊が討伐に出勤した際、突如として居て聞いた。				戦傷死	20 / 31	胸部貫通銃創	中華民國河南省武涉縣 西尚村	20 / 31	内	縣 府 道 都	獨 歩 390 大	所 属 部 隊	所 属 固 有 部 隊
本 人 と の 關 係					1740			1940	容			所 属 部 隊	所 属 固 有 部 隊
同部隊 大隊本部の先任衛 兵と中隊の 衛生兵との関係で 上と知る居た									部 隊			所 属 部 隊	所 属 固 有 部 隊
隊 部 所 属		所 住 現		※ 甲 乙		※ 甲 乙		※ 甲 乙		兵 種		(後) 級 等 官 (前)	
獨 歩 390 大 本 部		[Redacted]		乙 甲		乙 甲		甲 乙		[Redacted]		(後) 級 等 官 (前)	
官 兵 名		衛 生 軍 曹		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		年 月 日 生		(後) 級 等 官 (前)	
記 事		討伐中、上記日時場所で大隊長以下が約 三つの敵を包圍せられ、はたして中隊第一 小隊が援護係として、自厚傷の被害を被り、 亡し、身元不明、心時分、上等兵が狙撃 せられ、倒れ、その被害を被り、敵弾を 時受け、倒れ、胸部貫通銃創を受け、 の大目同中隊の衛生上等兵が現認したが、 状況不明、上等兵も其の後戦死した。上等 兵が現認した旨を、[Redacted]に告げ、[Redacted]大隊長 の名は解らない。19時30分大隊が突撃を 敢行して、その消息は不明、[Redacted]の消息を											

# 死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所 右ニ同シ

所屬部隊 第四氣象隊

徵集年限 七年 官等 氏名

右ノ者昭和<sup>二</sup>七年<sup>九</sup>月<sup>二</sup>日 夜五時

分隊<sup>ニ</sup>於テ<sup>テ</sup>定<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>依リ<sup>テ</sup>戰傷

病死シタルコトヲ<sup>〇</sup>證明<sup>〇</sup>(現認)ス

昭和<sup>二</sup>七年<sup>九</sup>月<sup>二</sup>日

所屬部隊

職名 分隊長

官等 陸軍少佐

氏名

注意

一、死亡地點、受傷部位、病名等列明シテハルモノハ詳記ス  
二、職名ハ中、小隊長、班長、排長等ト詳記ス

おぼえがき資料通報

軍 邦

軍部 地区 区分

A 資料提供者		B 米 相 遺 者 資 料				入手経路	
詳細な本人との関係		詳細な状態	場所	時期	所属部隊(職域又は住所)	用 ( ) 無	合 訓
同部同隊 同隊同級 同隊同級		南 洋 軍 隊 後 方 隊 三 月 頃 迄 の 行 動 記 録 三 月 頃 迄 の 行 動 記 録 三 月 頃 迄 の 行 動 記 録	廣 西 省 貴 陽 県 五 塘	昭 和 二 十 年 四 月 三 十 日	甲 乙	現 兵 (職 域) あ 階 (職 名) 二	
所 属 (部隊名)	現住所		甲 乙 丙 区 分	甲 乙 丙 区 分	留守宅	氏 名	特 別
同部同隊			甲 乙 丙	甲 乙 丙	月	川	必 須
階級 (職名)	本籍				甲 乙	甲 乙	前 不 詳
氏名					右	日 生 当	吉 野 忠 雄 前 部 長
C 所 見							

前 有 無 済 | ( ) ( ) ( ) ( ) | 番 子

書 明 證 認 現 確 亡 死

邦・海・陸

裏面記載上の注意を見ておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

資 料 提 供 者		死 亡 確 認 証 明 書																					
死 亡 知 照 方 法		遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 骸 の 処 理	元 諸 亡 死 事 由 ( 傷 病 名 )	諸 死 亡 場 所	亡 死 亡 日 時	死 亡 区 分	発 病 場 所	発 病 時 期	区 分	本 籍 地	開 戦 時 の 住 所 ( 在 留 地 )	所 属 ( 所 轄 ) 部 隊 又 は 職 域 名		種 兵 種 役		級 階 の 時 亡 死 ( 職 名 職 位 又 )		名 氏				
上 記													通 称	有 固	現	工	名 氏						
関係のと者亡死				左側腹部貫通銃創	中華民国広西省南寧県馬場寮養所	20. 4. 30	戦 傷 死			内 容													
所 住 現				※	※	※	※	※	※														
職 部 所 所 城 隊 轄 属										死亡当時の状況及び参考資料		者 担 守 留 名 氏 所 住 現		統 柄 ( 身 )		名 氏		名 氏		名 氏			
工 兵 隊 第 一 連 隊										初年共引率に内地級還すべき本隊(当時少尉)元復隊のたり転進中広西省武陵壙付近にて敵と遭遇し、20. 4. 28(29. 30)内野中に於て左側腹部に銃創を被り、左側腹部貫通銃創に因り南寧県馬場寮に入院し、20. 4. 30 戦傷死		統 柄 ( 身 )		現 工		伍		名 氏		名 氏		名 氏	
曹 長																							



殺死確証

之北支隊遺跡之遺棄備兵等物等大隊者之中隊

小銃班陸軍二年兵

出身地

[Redacted]

[Redacted]

右、昭和三十年八月三日、中華民国山西省永濟縣胡營村、  
我軍中頭部に敵彈を受け、我死致し、その遺骸を確証致す。

之北支隊遺跡之遺棄備兵等物等大隊者之中隊

小銃班

[Redacted]

昭和三十年七月三日

寫

戰死確認書

本籍地

[Redacted]

陸軍航空兵 伍長

[Redacted]

[Redacted]

右者昭和二十一年七月十四日午後三時三十分關東州鳳鳴島西南方海上三十哩ノ地奥ニ於テ襲撃機ニ同乘射撃教育實施中機關部故障ノタメ海上ニ不時着シ同日夕刻ヨリ暴風雨ノタメ遂ニ救助出來ズ戦死セルコトヲ確認ス

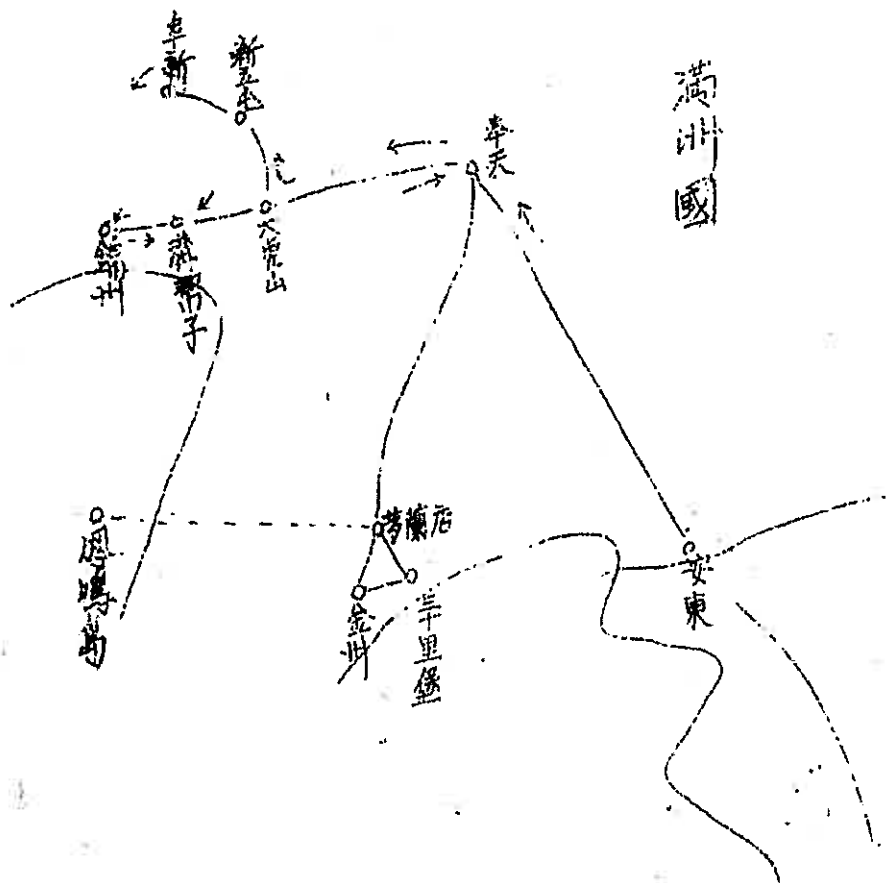
昭和二十一年九月二十八日

[Redacted]

元陸軍航空兵 伍長

[Redacted]

# 足跡圖 寫



足跡

昭和十九年

九月十八日甘木生徒隊出發

二十日博多出發

二十三日釜山着

二十五日阜新着(三日間本隊)

二十七日新五七着

津浦部隊

約一七〇餘人于海州子二轉局

十月中旬錦州二轉局

昭和二十年

六月一日金州二放道

七月初旬三里堡二移動

十四日同隊行隊ヨリ飛ヒタ子

遼鳴島(西南方二千)

戦死ス

16-17



現認證明書

本籍地

所屬部隊

官等級

第廿六教育飛行隊

陸軍少尉

右者昭和二十年七月二十二日九時東滿三江省

佳木斯東北六料、地矣上空ニ於テ

空中戰鬥訓練中準戰傷死セリ

右現認ス

昭和二十一年九月三十日

第廿六教育飛行隊附

陸軍少尉

現任所

7-14

Handwritten text at the top of the page, including the characters "考" (Exam) and "行" (Action/Line), and a date "1945年" (1945).

姓名	性别	年龄	籍贯	职业	学历	备注
张德全	男	35	浙江嘉兴	教师	高中	中共党员
李德全	男	32	浙江嘉兴	教师	高中	中共党员
王德全	男	30	浙江嘉兴	教师	高中	中共党员
赵德全	男	28	浙江嘉兴	教师	高中	中共党员
孙德全	男	25	浙江嘉兴	教师	高中	中共党员

Handwritten notes and signatures in the right column of the table, including names like "张德全" and "李德全".

地方世話部分

死亡者覺書

所屬部隊 16634	死亡時ノ官等 少	氏名 [Redacted]	區分 破駒	事由 航空事故	場所 天壽	年月日時 20/30 甲	確度 目録	確度決定事由 留守療養者住所氏名	籍地 [Redacted]	遺留品 下	復員後ノ連絡先 [Redacted]
---------------	-------------	------------------	----------	------------	----------	--------------------	----------	---------------------	------------------	----------	-----------------------

昭和

2年

11月

15日 陸軍製

於附館上陸地支局

9-14

證明(病死)職

大町

市

支局

支局

支局

支局



# 死亡現認(確認)證明書

◎裏面記載上の注意を見て書いて下さい。

資料提供者	死者の資料					現留守住者	本籍地	無右の届
死亡の通知の方法	遺留品	及遺骸の遺理	元 結 亡 死			區 分	部 所	所 有 同
			死亡原因	發病時	傷病名	死亡場所	死亡日時	
莫の位牌を遺した					毒病	錦州陸軍病院	昭和二年七月下旬	114 北支九二大隊
関係の人物	内容					縣 府 道 都		屬所部細
本人收者病隠の患者係								(召應地現)種役
除部屬所 所住現	* * * * *							種 兵
錦州陸軍病院								歩
衛生隊中								(後)級停官(前)
	* * * * *							種
								一
						名氏者當擔守衛	名	兵
						籍柄( )	年 月 日生	
	(況 状 の 時 當 亡 死)					病隠全故の患者係、為 詳細不明		

\* (調製官捺)

昭和 26 年 月 日



◎裏面記載上の注意を見て書いて下さい。

# 死亡現認(確認)証明書

※(調製月日) 昭和 年 月 日  
 ※(調製官署名)

資料提供者		死者の資料					現住所	本籍地	無利の同業	
死と知った方法		遺品	及遺骸の処理	元諸亡死					区分	職部
部隊命令に依り承知す 葬儀に司令部を代表 して参列す。				死亡区分	死病時	傷病名	死亡場所	死亡日時		
		戦死		胸部貫通銃創	中国香港島	昭和20.8.2	兵部 兵部			
関係の人名		?	火葬				兵部	兵部	兵部	
部下							兵部	兵部	兵部	
隊部	所住現	(現狀の時当亡死)					記	名氏者当担守出	名氏	兵部 兵部 兵部
香港占領地 總督部附										
職部	官氏									年 月 日生
	陸軍中計									

一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...

姓名	...	...	...	...	...
出生年月	...	...	...	...	...
籍贯	...	...	...	...	...
学历	...	...	...	...	...
工作经历	...	...	...	...	...
特长	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...

一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...

一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...

死亡現調(遺留)證明書

遺留品	死の遺留					住所	籍地	年齢	性別	職業	
	死亡原因	發病時	傷病名	死亡場所	死亡日時						現住所
病床自誌に死亡の調書	戦病死		榮養失調症	錦州陸軍病院松之石分院	昭和二十年八月九日	縣 府 蕪 湖	物				
土葬											
状況の時當亡死					病勢悪化衰弱甚しく遂に死亡する。						
関係の人	病院看護婦					姓名	住所	年齢	性別	職業	
現住所	錦州陸軍病院					姓名	住所	年齢	性別	職業	
現住所	長物街					姓名	住所	年齢	性別	職業	



寫

謹啓

不昧ながら、君の御訃に關しまして一筆致します。小生終戦前には、  
とは同じ部隊に居りまして今の度蘇聯より復員して帰って来たもので  
御座います。突然の通報で甚だ驚かれます。君は対ソ戦  
に於て昭和二十一年八月八日滿洲は金廠溝と云ふ所で戦死した模様で  
あります。元來存望で帰って来られるの迄永の年月まで御待ちになつてお  
られたことでありませう。誠に御同情に堪へません。御通報申し上げる  
のも心苦しく多数の戦死者を出しました小生と致しましても本當に御挨拶  
の申上げれも御座りません。当時の状況を申しますと大要次の通りで御  
座ります。

部隊名は滿洲第十一航空情報隊（オ一六六六ニ部隊）当時滿洲に  
在りましたオニ航空軍の隷下であります。部隊の任務はソ連の航空  
状況を觀察し又は局部的地方の気象を觀測し又日本の方に報告す  
るの主任としてありました。

23-15

2082

君は該部隊の第一中隊第一情報班第一分隊の一員としておらず六名  
でもって金廠溝と云ふ小国境線に於て独立勤務をしておられました。  
当時金廠溝には地上部隊はわづかに三〇名足らずの君の分隊六名  
が共に国境線と接ぎ備監視をしておりました。

八月八日零時零分を期して敵の対日攻勢特に飛行機による越境が  
開始せられました。君の分隊も早速に敵の第一直を補佐せられ  
情報電報の第一報を当時八面通におりました第一情報班長の  
私の所に通報せられました。その後地上部隊の攻勢をうけられ包圍  
せられた林子であります。同日十六時頃全々無線も不通となり叫  
出しを盛んにやりました。が応答なく遂に消息を絶ったのであります。  
その後いろいろ手段を盡し分隊の消息を尋ねたのであります。が  
勿論、金廠溝よりの生還者は一名もなく玉碎せられたんぢやない  
かと想像せられます。

君の分隊は当時としては全々の殊勲で停戦前日即ち十四日時

のオニ航空軍司令官 [redacted] 閣下より朕隊に付いて特に各  
分隊は敵中にありて任務の完遂云々と賞詞を戴き緊急報込にて  
全滿に達せられた程であった。当時としては全く頭の下る立派な働き  
ぶりであった。えも停戦になり [redacted] 君達の御活躍に對し何等報中  
る事も出来ませず直接の長としての私は勿論御両親初め御親類  
御一同様の御無念如何ばかりかと想ふだけに残念で御座います。全く優  
秀な人ととくしたるは任務とは申せ誠に申訳がなく思つております  
何分何百封を離れた所に居て唯無線機のみを唯一の連絡手段として  
ありましたものです。から戦死の様相など詳しく申上げる事も出来ませ  
亦遺骨遺品等の搜索手段もありません。はつきりとした御報告  
を申し上げざるの出来ませぬの事何卒御許し下さい。尚御向ひして御  
報告申し上げるのが至当とは存じますが何分遠方よりとて参上も容  
易ならず御諒承下さい。

先はとり急む御一報迄

敬具

23-17

2084

戰時死亡現認證明書

頒製年月日 昭和三年一月廿日  
現認者所屬 滿洲第八五二部隊  
舊氏名印 陸軍長

區分

記

事

本籍地

所屬部隊

現認者所屬 滿洲年徵集第八五二部隊

役種 徵集年

官等級(身分)總月給額氏名

陸軍 現役 兵長 以永十九年 徵集

生年 月 日

留守擔當者 住所

姓 氏 名

女

死

年月日時及區分 昭和二十一年八月十日 時 命 戰死

場所 滿洲海林

備註 姓名 陸軍長

戦地到着

昭和十九年八月十日 (圓領録)

勤 務 機 関

昭和二十年六月廿一日 新東一古六四部隊(教育隊)ニシテ  
戦地通信ノ教育ヲ受ケ、原隊ニ戦地(寧ろ)ニシテ、初年其教育  
及ハ戦地通信ニ進ムベシ。

交 通

年月日 所 昭和三十九年八月十日 時 小

備 傷 (乘) 名

瑞 所 滿洲海林 壓 棘

受 傷 (罹 禍) 状 況

列車が急停車シタル處一貨車ト車体カ押シマフサレシニ  
換マレタル中。

戦 死 (罹 禍) 状 況

暗夜列車ニテ移動中ノコトヲ察スルニ一猪ナリシニ、死体モ  
判然セザリシモ、人算其時ニヨリ戦死確カトシテ、

9-15

# 死亡現認(確認)證明書

\* (複製官署) 昭和26年7月5日

資 料 提 供 者		死 亡 者 の 資 料											
死亡と知つた方法		遺 留 品	及 遺 骸 の 處 理	元 諸 亡 死					現 留 守 住 擔 當 所 者	本 籍 地	無 有 の 籍		
死亡と知つた方法				死 亡 區 分	發 病 時	傷 病 名	死 亡 場 所	死 亡 日 時			縣 府 道 郡	縣 部 屬 所 部 通 有 國	縣 部 屬 所 部 通 有 國
平壤南下の爲残置遺棄 であつて新京取出る時死 したと聞いた				戰病死	肺病	新京二陸病	昭和二十年八月十三日	縣 府 道 郡	[Redacted]	戰車二師防空隊			
本人との關係				※	※	※	※	※	容	縣 部 屬 所 部 通 有 國	(召應地現)孤校		
同一病院の婦長				甲	甲	甲	甲	甲	部 度	種 兵	(後)級特官(前)		
新京二陸病				(死 亡 時 狀 の 現 況)					記		名 氏 者 當 擔 守 留	名 氏	氏
[Redacted]				[Redacted]					親 柄 ( 父 )		年 月 日 生	[Redacted]	[Redacted]

戦死證明書

年 月 日生

君は興安西省阿魯科爾沁旗勸業科畜産関係に  
参事官を隊長とする南東軍の命に依り、連軍後方攪  
乱遊撃部隊に従事し、日ソ交戦を報じ受くるや、隊長以  
下之が目的遂行を為山中に寄り、ソ連軍南下を報  
ありたるも日本軍の部隊全然不明を為中途より遊撃部隊に  
合流すべく出勤中崑都西北方陣地付近におりて生死不明となる  
(昭20.9.13)阿魯旗遊撃部隊最初生死不明者なることを証明  
す。

尚阿魯科爾沁旗 隊長以下全員爾後又戦に於て  
戦死。警察官より阜新に脱出他日系全員戦死す

右

君の戦死確実なることを証明す

昭和四十年一月七日





死亡事實員覽認証明書昭和三十一年十一月

可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日
可長通有	姓名	昭和三十一年十一月十日	昭和三十一年十一月十日

参考資料 (不要の分は消して)

一 死亡原因 (不明) (死因不明)

一 死亡場所 (不明) (死場所不明)

一 死亡時間 (不明) (死時間不明)

一 死亡場所 (不明) (死場所不明)

一 死亡時間 (不明) (死時間不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

一 遺言 (不明) (遺言不明)

197

死 亡 境 況 ( 確 認 ) 証 明 書

裏面記載上の注意を見て書いて下さい ※及び裏面の各欄は記載に及びません又書き方がわからない点がありましたら遠慮なく調査官に聞いて下さい

資 料 提 供 者 死 亡 者 自 身 知 識 者 法 方 法	遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 體 の 処 理	死 亡 時 刻		死 亡 日 時	死 亡 場 所	諸 病 名	死 亡 原 因	現 住 所	本 籍 地	所 屬 部 隊	固 定 住 居	有 限 公 司	通 信 局	細 部 所 屬	地 区 局 面	職 種	兵 種	死 亡 時 刻	氏 名	年 月 日 生	統 領 ( 公 文 )	死 亡 時 刻 の 状 況 及 び 参 考 資 料
			死 亡 区 分	死 亡 時 刻																			
死 亡 者 自 身 知 識 者 法 方 法	遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 體 の 処 理	死 亡 区 分	死 亡 時 刻	死 亡 日 時	死 亡 場 所	諸 病 名	死 亡 原 因	現 住 所	本 籍 地	所 屬 部 隊	固 定 住 居	有 限 公 司	通 信 局	細 部 所 屬	地 区 局 面	職 種	兵 種	死 亡 時 刻	氏 名	年 月 日 生	統 領 ( 公 文 )	死 亡 時 刻 の 状 況 及 び 参 考 資 料
死 亡 者 自 身 知 識 者 法 方 法	遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 體 の 処 理	死 亡 区 分	死 亡 時 刻	死 亡 日 時	死 亡 場 所	諸 病 名	死 亡 原 因	現 住 所	本 籍 地	所 屬 部 隊	固 定 住 居	有 限 公 司	通 信 局	細 部 所 屬	地 区 局 面	職 種	兵 種	死 亡 時 刻	氏 名	年 月 日 生	統 領 ( 公 文 )	死 亡 時 刻 の 状 況 及 び 参 考 資 料

死 亡 者 自 身  
知 識 者  
法 方 法

死 亡 者 自 身  
知 識 者  
法 方 法

死 亡 者 自 身  
知 識 者  
法 方 法

死 亡 時 刻 の 状 況 及 び 参 考 資 料  
本 名 は 本 姓 名 花 行 隊 に 少 尉 同 級  
等 と 共 に 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 ( 花 行  
少 尉 隊 ) に 転 属 対 潜 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
隊 は 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
ら 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
編 隊 ？ 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
集 結 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
附 近 に 於 いて 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
行 動 中 昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新  
昭 和 大 連 用 水 子 龍 隊 隊 長 に 従 事 中 新

136-157

昭和29年10月28日  
留守業務部第五課  
先通知

宛	山経	務	輸	務
<p>世祐部長殿 印</p>	<p>以田部 木四課</p>	<p>留守業務部第五課</p>	<p>昭和29年10月28日</p>	<p>先通知</p>
<p>本名と同行動者(死亡現認者)</p>				
<p>(元々尉)</p>				

見所署公官任担査調 緯経手入

資料区分 旧 生見 ↓ 新

一、死亡の現認者(死亡現認者)の死亡の処理を行う場合の基本となる證據書類でありますから特に正確に書いて下さい。従って、記憶が不確実なる箇所には?をつけてその旨を明かにして下さい。

二、死亡を知った方法の欄には、自から現認した(見た)死水をとった、臨終に立会った、屍衛兵に立った、慰靈祭又は葬儀に立会った、誰々から聞いた、死亡したことを命令等で見た等死亡事実を知った方法を具体的に書いて下さい。

三、死亡当時の状況はなるべく詳細に記入して下さい。又参考資料として「貴方の外に本人の死亡事実を知っている人があればその人の氏名、所属部隊、本籍地等」「死亡者の特徴(容貌、体格、特長、前職等)」「死亡者が軍属の場合は、その官等俸給(日給)、採用年月日等」その他死亡者について御承知になっていることは附記して下さい。

四、資料提供者の記入欄中記入の出来なかつた事項を、調査官が訂正又は補備した場合「」を附して記入し、資料提供者の記入したものは「」を明瞭にすること。

一、死亡の現認者(死亡現認者)の死亡の処理を行う場合の基本となる證據書類でありますから特に正確に書いて下さい。従って、記憶が不確実なる箇所には?をつけてその旨を明かにして下さい。

二、死亡を知った方法の欄には、自から現認した(見た)死水をとった、臨終に立会った、屍衛兵に立った、慰靈祭又は葬儀に立会った、誰々から聞いた、死亡したことを命令等で見た等死亡事実を知った方法を具体的に書いて下さい。

三、死亡当時の状況はなるべく詳細に記入して下さい。又参考資料として「貴方の外に本人の死亡事実を知っている人があればその人の氏名、所属部隊、本籍地等」「死亡者の特徴(容貌、体格、特長、前職等)」「死亡者が軍属の場合は、その官等俸給(日給)、採用年月日等」その他死亡者について御承知になっていることは附記して下さい。

四、資料提供者の記入欄中記入の出来なかつた事項を、調査官が訂正又は補備した場合「」を附して記入し、資料提供者の記入したものは「」を明瞭にすること。

136-16

# 死亡現認(確認)證明書

◎裏面記載上の注意を見て書いて下さい。

資料提供者		死者の資科												
死と知つた方法		遺留品	及遺骸の處理	元諸亡死					現留守擔當者	本籍地	無有の届			
臨終に立合つた				死亡區分	發病時	傷病名	死亡場所	死亡日時			縣	道	郡	部
		内地發達の目的にて取まとめるも終成にて不明	火葬	不明 20.2.28奉天陸軍より転送	肺結核兼陽結核	錦州陸軍病院拉之七分院	昭和二十年一月十五日二十時	內	縣	道	郡	部	所	北支隊55団無
係關のと人本														
転送時看護婦														
除部屬所														
所住現														
一五五三部隊														
姓名														
日赤救護看護婦														
		<p>(現狀の時當亡死)</p> <p>病院移動直前の極めて混屯たる情勢下、氏は約十日程前より病狀最悪にて肉を食ふ状態にあり看護婦一名死交代にて病頭に付きまきり、看護としも食慾全くなく一同の看護の甲斐もなく死亡せる</p>												
		<p>續柄 ( )</p>												
		<p>名 氏</p> <p>年 月 日生</p>												
		<p>名 氏</p> <p>官(前)等(後)</p> <p>上</p>												

※(調製月日) 昭和26年 9月 26日

※(調製官署) 留守業務部